

平成 18 年 3 月 22 日

## 「1783 浅間山天明噴火」報告書案について

分科会主査 渡辺 尚志

当分科会が取りまとめた別添報告書案について、本専門調査会においてよろしくご審議頂きますようお願い致します。以下概要についても、中央防災会議報告時の説明資料としても利用致しますので、合せてご審議頂きますようお願い致します。

## はじめに

天明 3 (1783) 年 7 月 8 日 (新暦 8 月 5 日) 浅間山が大音響をあげて爆発し、大規模の泥流を発生させて浅間山北麓から利根川流域を中心とする関東平野に甚大な被害をもたらした。このころはいわゆる田沼時代であり、災害がおりから発展しつつあった商品流通ルートに大打撃を与えたため大規模な一揆が発生した。

## 第 1 章 天明 3 年浅間山噴火の経過と災害

浅間山は東日本火山帯に位置し、40 万年以上活動を続けている。

天明 3 年噴火は歴史時代の噴火としては天仁元 (1108) 年の噴火と並ぶ最大規模のものであった。4 月 9 日 (新暦 5 月 9 日) 浅間山が噴火を始めたがこのときは軽石や火山灰の降下为主であり、火砕流や溶岩流も発生したが遠方まで到達せず被害は少なかったと見られる。その後 7 月 8 日 (新暦 8 月 5 日) に至り大音響をあげて爆発し、大規模の泥流を発生した。被害は甚大で流死者 1624 人、流出家屋 1151 戸と見積もられている。

## 第 2 章 よみがえった「天明 3 年」

浅間山の北麓、泥流に埋もれた鎌原村の発掘調査が昭和 54, 55 年度に行われ、天明 3 年噴火の被害と近世の村の様子がよみがえった。観音堂の石段に埋もれた女性の遺体は緊迫した避難の様子と被害の悲惨さ、出土したビードロ鏡 (ガラス製鏡) や茶碗、茶釜は被災前に花開いた“草莽の文化”を現代に伝えている。

このような遺跡は天明泥流の被災地となったところに散見され、当時の暮らしや農業の様子をたどることができる。

## 第 3 章 復興への努力と災害の記憶

被災直後には周辺の有力百姓が食料や住居などの援助を行って当座をしのぎ、ついで幕府のお救普請によって雇用を確保しつつ田畑再開発、道路復旧が進められたが、幕府領に比べて小さな藩や旗本領の救援策が不十分であったため、大名・旗本領の村々にとっては不満も強かった。ところが村のレベルになると、大多数の村では復興を個々の家任せにせず、村全体として復興を進めるといった姿勢が見られた。

この災害の記録は比較的多く、絵図は被災の記憶を伝え、その全体像のイメージをよみがえらせてくれる。各地に残る石造物は被災の記憶を伝えるものもあれば、復興の功績を伝えるもの (報恩碑) もある。またそのような石造物の前では供養祭が 220 年の永きにわたって続けられており、災害教訓の継承という意味では貴重かつ重要な例である。

## おわりに (教訓)

- ・今回の噴火は特殊な要因もあるものの、将来にもやや様相を異にしても起こりうるケースであり、発生した場合被害甚大なので、過去の災害教訓を生かすことが大切。
- ・自助 (一般被災者) 共助 (地域リーダー) 公助 (行政当局) の連携、復興に当たっての被災地全体への目配りは、今日にも通ずる教訓である。
- ・形態はさまざまであっても、記念行事、イベントなどの機会を設けて災害の記憶と教訓を共有することは今日的にも重要。

## 1 分科会の開催状況及び報告書作成スケジュール

H16. 3. 9	第1回開催（内閣府）	構成及びスケジュールの検討
H16. 4. 2	第2回開催（内閣府）	執筆分担の検討
H16. 9.15	第3回開催（内閣府）	構成及び執筆分担の検討
H16.11.27～28	第4回開催（軽井沢他）	現地調査及び担当原稿の検討
H17. 2.21	第5回開催（内閣府）	担当原稿の検討
H17. 5.13	第6回開催（内閣府）	報告書案の検討＜最終回＞
H18. 2.10	報告書素案完成、小委員会で審査	
H18. 3.22	報告書案完成、専門調査会で審査	
H18. 4.上旬	専門調査会指摘事項修正	
H18. 4月中	原稿最終校正	
H18. 5.上旬	報告書（200部）完成予定	

## 2 分科会委員

渡辺 尚志	一橋大学大学院社会学研究科教授
荒牧 重雄	日本大学講師、東京大学名誉教授
大浦 瑞代	お茶の水女子大学大学院
鎌田 浩毅	京都大学大学院人間・環境学研究科教授
*北原 糸子	神奈川大学非常勤講師
関 俊明	群馬県埋蔵文化財調査事業団
安井 真也	日本大学文理学部地球システム科学科

（ ）：分科会主査、\*：専門調査会小委員会座長

### 事務局

#### <内閣府>

荒木潤一郎	政策統括官(防災担当)付災害予防担当企画官
安竹 竜一	政策統括官(防災担当)付総括担当参事官付
清水 透	政策統括官(防災担当)付地震・火山対策担当参事官付

#### <(財)日本システム開発研究所>

山田美由紀	研究部第二研究ユニット
-------	-------------

## 3 その他報告事項

- ・報告書の成果を主に被災現地へ還元するために、地方公共団体等主導型の報告会を計画する（「1891 濃尾地震」の例を参考とする。）。現在の計画は以下のとおり。

「浅間山火山フォーラム（群馬）」（5月28日（日））

主催：浅間山火山防災対策連絡会議（会長：小諸市長）

後援：内閣府政策統括官（防災担当）群馬県、上毛新聞社

「浅間山火山フォーラム（長野）」（6月25日（日））

主催：浅間山火山防災対策連絡会議（会長：小諸市長）、浅間縄文ミュージアム

後援：内閣府政策統括官（防災担当）長野県、信濃毎日新聞社

- ・1783年浅間山噴火災害絵図類一覧表、1783年浅間山噴火災害関連石造物一覧表等については、図表の分量が非常に多く、かつ内容が貴重なものであることから、CD-ROMにまとめ、報告書の付録とする。

# 1783 浅間山天明噴火

## 報告書案

平成十八年三月

中央防災会議  
災害教訓の継承に関する専門調査会